



2023-24 年度
国際ロータリー会長
ゴードン R. マッキナリー

Weekly Report Niigata



2023~24 年度
新潟ロータリークラブ会長

内山 博之



新潟 RC 10月第 5 例会 (2023.10.31) (Zoom 例会併催) No.3481

(1) ロータリーソング「手に手つないで」斉唱

(2) 内山 博之会長挨拶

皆さん、こんにちは。10月も本日が最終日であります今年も残すところ2ヶ月となりました。そろそろ忘年会の予定も入り始めた時期ではないでしょうか。先週の月見夜例会では、フレアバーデンダーの富田晶子さんをお招きしましてフレアショーしていただきまして、最後に手に手つないで締めくくり、クラブ全体で一体感を感じられた楽しい懇親会になったものと思います。高杉委員長初めとします親睦委員会の皆さん、計画の準備段階から交渉、当日の設営と大変お疲れ様でした。次回は、12月12日長吉さんの野鴨の会が待っておりますので、こちらも楽しみにしております。引き続きよろしく願いいたします。また、本多ロータリー財団委員長におかれましては、初の試みでバザーを開催していただき、本多ロータリー財団委員長の軽快なトークと煽りで、全ての商品が無事メンバーの皆さんの元へ渡りまして、総額746ドルの寄付を頂戴することができました。こちらは、来月のロータリー財団月間に合わせまして、来月のレートにて受付させていただきますのでよろしく願いいたします。さて、今日は今更聞けないロータリーの第五回としまして、ロータリークラブとライオンズクラブの違いについてお話させていただきます。入会して間もない頃にある方から教えていただいたのは、違いということロータリーは、I Serveであり、ライオンズはWe Serveであること、また今となってはそうでは無いと理解していますが、ロータリーは、金銭を寄付する団体で、ライオンズは身体を使って奉仕する団体であるとのことでした。最終的な結論は、どちらの団体も社会奉仕団体であって、双方の違いは実務面ではほとんどないということなのですが、少し調べてみましたので聞いていただければと思います。ロータリーは、1905年にシカゴでポールハリスによって設立された職業倫理の高揚を学び一人ひとりの職業を通じて社会に如何に奉仕するかという職業奉仕を重点に、I Serveを理念とした団体です。一方ライオンズは、1917年にシカゴで元ロータリアンのメルリン・ジョーンズにより社会奉仕を重点に、We Serveを理念とした団体であります。クラブ・会員数はライオンズの方が多く、特に女性比率はライオンズの方が、23.4%と大分高く、ライオンズは、2018-19年度に初の女性国際会長が誕生したのに対して、

ロータリーは、2022-23年度でした。日本で最初のクラブはどちらも東京クラブなのですが、東京ロータリークラブは、会員数335人に対して、東京ライオンズクラブは49人です。ライオンズクラブが比較的小規模であるのは、ライオンズの方針でして、100人のクラブを1つ作るよりも25人のクラブを4つ作った方が、団体奉仕に対する意識が高まるからとのこと。次に目的ですが、ロータリーは、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励しこれを育むこととし、ライオンズは、ライオンズの誓いには、我々は知性を高め、友愛と相互理解の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進するとされています。ビジョンですが、ロータリーは、私たちは世界で地域社会でそして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。ライオンズは、地域社会と人道奉仕におけるグローバルリーダーを目指すとされています。次にモットーですが、ロータリーは、その公式標語で、超我の奉仕と、最も良く奉仕する者、最も多く報いられるでありますし、ライオンズでは、我々は奉仕するであります。ちなみにライオンズの由来ですが、自由を守り、知性を重んじ、我々の国の安全を図るということです。ロータリーは、1991年に国際ロータリーの使命として、団体奉仕活動が提唱されるようになり、次第に団体奉仕活動に傾いていったようです。次に例会ですが、ロータリーは毎週1回開催なのに対して、ライオンズは月2回開催であります。ここが大きな違いといわれていたのですが、2016年の規定審議会において、月2回以上でいいということになりました。ここでもライオンズ化していることとなります。最後に、決議機関ですが、ロータリーでは、3年毎開催の規定審議会ですが、ライオンズは毎年の国際大会となっておりますが、2016年にロータリーは規定審議会以外に、毎年の決議審議会を創設しております。ここでもロータリーのライオンズ化ということになります。まとめますと、日本のロータリーの伝統的な考え方が、例会重視であり、職業人がその会員基盤となり、職業奉仕として職業理念・倫理が重視され、奉仕の主体が個人奉仕であったわけですが、昨今、RIの考え方がライオンズ化することにより、例会だけでなく奉仕プロジェクトの実践が求められ、多様なリーダーを募集し、職業奉仕をプロジェクトの一つとしてとらえて、個人奉仕だけでなく団体奉仕も求められているということになります。いずれに

しても、どちらも社会奉仕団体で変わりありません。最後に、今週末の11月4日と5日は、三条市にて2560地区の地区大会が開催されます。リアル参加される方も多数いらっしゃいますが、それ以外の方は、地区大会2日目の本会議がオンライン配信されますので、お時間許す方は、ぜひZOOMでの参加をよろしくお願いいたします。以上、本日の会長挨拶とさせていただきます。有難うございました。

(3) ビジターの紹介

本間啓介君 (村上RC)

(4) 委員会報告

・鈴木宏司インターアクト委員長よりインターアクト年末年始献血呼びかけキャンペーンご案内

今年は新潟明訓高校インターアクトクラブがホスト、当クラブがスポンサークラブとして献血呼びかけを行います。4年ぶりにステージイベントを復活致しますので、その費用をロータリアンにお願いすることになりました。協賛頂いた方はチラシに掲載させていただきます。4年前は180社程のご協力を頂いておりましたので、それに近いご協力をお願いしたいと考えております。

開催日 2023年12月17日(日)
13:30~16:45

会場 万代シティ周辺、万代シティ2F 特設会場

・高杉親睦委員長より野鴨を食べる会ご案内

開催日 2023年12月12日(火)
会場 長吉
バスの運行 イタリア軒前 17:00 出発 20:30 帰着

・本多晃財団委員長

ロータリー財団チャリティーオークションにご協力いただき、ありがとうございました。合計746ドルのご寄付を頂くことになりました。ご記入いただいた一覧表を11月の例会受付に、ご用意しておきます。ロータリー財団寄付用紙(ピンク色)に、ポリオプラス寄付または年次寄付いずれかにご寄付されるか記載して、ご寄付ください。宜しくお願い致します。

(5) 高橋 秀樹さんより「平家琵琶貳佰句通語聴會」ご案内(最終ページに記載)

(6) 各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付発表(高橋 智則委員)

徳永 昭輝君

青少年育成基金寄付発表(高山 克幸委員長)

本間 彊君 高山 克幸君

(7) ニコニコボックス紹介(福満純幸委員)

・榎本 豊君 来る11月3日(金)第一生命主催のアーバンスポーツフェスティバルを開催する運びとなりました。ゲストにスケートボード金メダリストの四十住さくらさんがスケートボード教室を催し話題のチビユニティのダンス等、様々なアトラクションをご用意しております。お時間のある方は是非、お待ちしております。

・本間 利夫君 本日47回目の結婚記念日のお花をいただきました。ありがとうございました。

・高杉 直希君 みなさまのおかげで無事 月見例会を終えることができました。ありがとうございました。

・苅部 雄一君 大変遅くなりましたが、誕生日のワインありがとうございました。

(8) 幹事報告(小川 潤也幹事)

11月4日5日 地区大会にご参加の方は 会場で名札を幹事よりお受け取り下さい。1日目…燕三条ワシントンホテルの駐車場は、イオンと共用です。立体駐車場は9時~23時まで入庫可能。23時から7時まででは出庫できなくなりますのでご注意ください。燕三条地場産業センターの駐車場もご利用下さい。2日目…燕三条地場産業センターは「道の駅」となっており、一般車も駐車します。駐車場の空いている場所を探して駐車して下さい。

(9) 卓話

「企業成長に貢献する自発的人材の採用・育成方法」

(株)think shift 代表取締役 浅野泰生 氏



(10) 卓話10月31日の例会参加率

会員数	算定対象者	出席者	参加率
85	83	60	72.29

Zoom 参加 12名

ライラ参加報告

秋山 博一ライラ委員長

10月21日にホテルオークラ新潟で開催された「第22回ライラ研修」の報告をさせていただきます。

今年度のライラ研修はホストクラブが新潟西ロータリークラブでして、コロナ以前のように宿泊を伴う形ではなく、午前中は基調講演、午後は特別講演、そして閉会後に懇親会という流れで開催されました。新潟ロータリークラブとしては研修生としてローターアクトクラブなどから4名の参加、またホストクラブより米山奨学生とカウンセラーにも参加依頼があり、石橋カウンセラーも出席されました。

午前の部として、講師は新潟青陵大学特任教授の伊藤充氏より、「新潟県 県民性と人物史 ～県民性と郷土の偉人から学ぶ～」をテーマに講演がありました。

「新潟県 県民性の人物史」といった本の著者として有名な先生でして、新潟県の県民性は「生真面目、誠実、野心がない」などであるとのことでした。

この県民性をベースに新潟県出身の偉人でありませぬ武将上杉謙信や外交官、経済人、教育者の方々それぞれの逸話を紹介されました。

午後の部の講師はシドニー五輪銀メダリストの中村真衣さんでして、4年以上ロータリーにいらっしゃる方は2020年2月開催の新潟TRC合同例会の講演でお話を聞いたことがあるかもしれません。マネージャーの木尾克己との息の合った掛け合いで、幼少期からの水泳人生で経験した喜びや悲しみ、人との出会いや絆の大切さを語られました。

「挑戦すること、チャレンジすることを恐れなくて！」「どんな人でも壁にぶち当たるもの、あきらめないで、どん底と思ってもはい上がる努力が大切！」といったメッセージをのこされました。

本研修では「自分の可能性を発見し行動へと繋げる方法を学ぶ」を主テーマとしてましたので非常に適した組合せだったかと思いました。

11月7日の例会予定

財団月間に因み「ロータリー財団について」

本多晃地区ロータリー財団委員会奨学金、学友会、VIT 委員

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

令和5年10月31日

新潟ロータリークラブ会員の皆様

新潟ロータリークラブ会員

高橋 秀樹

【お報せ】

新潟ロータリークラブ後援による社会奉仕事業

「平家琵琶貳佰句通語聴會」

拝啓 時下益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、此度、新潟ロータリークラブの御後援により、「平家琵琶貳佰句^{とおしがたりちようえ}通語聴會」を、約1年半にわたって行うことになりました。この事業は、**消失の危機に瀕した伝統芸能の保存、継承、一般公開を行う**ことにより、**社会に奉仕する**という意義を有します。

当クラブ会員安藤栄寿様の真宗大谷派隣陀山勝楽寺様を会場とし、当クラブ会員高橋秀樹（前田流平家琵琶鈴木孝庸門下演誦者）が演誦を行います。

本年11月21日（火曜日）15:00から第1回を行い、以後、毎週火曜日15:00から、計61回開催する予定です（参加費無料。年末年始、年度末年度初め、盛夏期間は事前にお報せの上お休みします）。なお、本事業は新潟大学人文学部からも後援を得ております。

事業内容について裏面をご覧の上、ご都合のよい折に御来場賜り、応援していただければ幸いです。また、周囲に関心がある方がいらっしゃいましたら、お伝えいただけますと大変嬉しく存じます。

以上、どうぞよろしくお願い申し上げます。

敬具

平家琵琶貳佰句 ^{とおしがりちょうえ}通語聴會 事業内容

1 平家琵琶（平曲、平語などとも言います）は、『平家物語』を、専用の琵琶（平家琵琶）の合いの手、伴奏によって語る伝統芸能です。

2 この芸能は、13世紀、鎌倉時代に始まり、約800年にわたり継承されてきました。盲人だけでなく、晴眼者も演誦を行います。

3 現在、全200句を継承しているのは前田流だけです。前田流全句の伝授を受けているのは全国に16人いますが、高齢その他の理由のため、演誦活動を行っているのは6、7人のみです。つまり、**消失の危機に瀕している伝統芸能**であると言えます。

4 全句を『平家物語』の順番通りに1人乃至2人の演誦者が公開の場で演誦すること（これを「**一部平家**」と言います）は、鎌倉時代から室町時代にはしばしば行われたようですが、江戸時代初期以降は行われた記録が無く、1998年に故橋本敏江師が数百年ぶりに復活させました。それ以後、新井泰子師、鈴木孝庸師が実現したことを併せても計4件しか実現事例がなく、**新潟では未だ行われたことがありません**。

5 今回の企画は、**真宗大谷派隣陀山勝楽寺御住職安藤栄寿様の御厚意**で、御本堂その他を会場として使わせて頂くことになり、実現しました。

11月21日から毎週火曜日の15:00より（厳寒期は事前にお報せの上開始時刻繰上有）、**1年半程**かけて、1回あたり2時間程度の演誦を**61回**実施することにより、『平家物語』**全編を演誦**いたします（会費無料。年末年始、年度末年度初め、盛夏期間は事前にお報せの上お休みします）。なお、第1回目の折には、平家琵琶秘曲の演奏（8分程度）があります。※駐車場利用については、「勝楽寺こども園」の園児保護者の方々の利用時間帯につき、ご遠慮ください。

7 **語りものの芸能の伝統は、それを聴く人と語る人の両方がいることで成立し、継承されてまいります。つまり、聴く人の存在が伝統を支えていると言えます。**演誦の途中からの御来場も、途中での御退席も一向に構いません。また、演誦中、うたた寝を楽しまれるのも歓迎します。

このような企画があることを、たまに思い出して、ご都合の叶うときに、ふらりと御来場して下さるだけで結構です。第200句目の演誦を終えるまで、**息の長い緩やかな応援を賜ることができたら幸いです**。どうぞよろしくお願い申し上げます。